

令和3年度 第2回学校運営協議会 記録

期 日 令和3年12月17日(金)
時 間 14:00~16:40
場 所 六郷高等学校 会議室、視聴覚室

学校運営協議会	委員メンバー (敬称略)			
佐藤 良一	学校運営協議会会長	齊藤 信英	美郷町商工会前会長	
福田 世喜	美郷町教育長	小松 勉	町内会委員	
藤嶋 政春	六郷高校同窓会	鈴木 正洋	美郷町議会議員	
後藤 智之	六郷高校教育振興会	藤岡 誠人	地元NPO代表	
伊藤 正章	六郷高校PTA会長	高橋 郷	福祉施設経営	
新田 義孝	美郷中学校校長	岩田 稔	元小学校校長	

生徒 3年生 8名 2年生 10名 1年生 5名

県教育委員会 高校教育課・生涯学習課

I 全体会 会場：会議室

(1) 校長挨拶

平素より、教育活動に御理解と御協力をいただき、感謝を申し上げたい。今回は、初めての試みとして、生徒と委員の皆さんとの懇談形式で行いたい。生徒との対話で本校をダイレクトに感じていただけるものと思う。本日は、県教育委員会からお二人の先生にお越しいただいている。うれしいニュースをお知らせしたい。厚生労働省ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰を受賞することになった。昭和61年からの長年にわたるボランティア活動に対する表彰である。平成22年度に社会福祉功労賞、平成26年度に厚生労働大臣ボランティア感謝状をいただいている。福祉科が平成15年に設立されるより前からの活動が評価されたことは喜ばしい。本日はよろしくお願ひしたい。

(2) 本日の概要説明

まずはじめに資料を御覧いただきたい。コロナ禍の中、できるだけ従来どおりの活動となるよう工夫しながら各種事業を進めてきた。協力いただいた関係各位には感謝申し上げます。

この後の分科会は、2つの部会に分かれて話し合いを行う。生徒も参加する。事前に生徒に行ったアンケートの結果も活用しながら話し合いを行っていただきたい。本校職員はファシリテーターを努める。

(3) 質疑応答

委員A

電子黒板に会議室の様子が映っているが、この会議の様子が配信されているのか。

教員A

配信されていない。プログラミングの授業の様子を委員の皆さんに見ていただくために準備したものである。

委員B

今後の改善と充実とあるが、本日の話し合いを行う上でのポイントをどのように焦点化する。

教員 A

アンケート結果から生徒の意識を汲み取っていただき、様々な意見や質問などを生徒に向けていただきたい。魅力ある学校づくりを考える契機になればと考えている。協議会で出された生徒の考えや意見も今後の学校運営等の改善に反映させていきたい。

委員 B

アンケートを踏まえた、感想を中心とした話し合いで課題等の焦点化が可能だろうか。

県教育委員会 A

話し合いを通して、課題の抽出まで行うのも一つの方法であるので今回はこのやり方で進め、課題等を次に生かしていけばよいのでは。

II 分科会 14:30～15:40

【キャリア部会】 会場：会議室

- ・自己紹介
- ・意見交換

司 会：学校行事について、感想や意見を願います。

1年生 A：職場見学が一番印象に残っている。各会社やその方針について知ることができたので、もっと見学の機会を増やしてほしい。また、個人的には歴史に興味があるので、歴史を学ぶ授業をもっと増やしてほしい。

1年生 B：運動が得意ではないので、苦手な人でも楽しめる行事があれば嬉しい。

1年生 C：テーブルマナーや着付け等、実用的なことを学びたい。

2年生 A：研修旅行（修学旅行）の曲げわっぱ体験が印象的だった。秋田県の素晴らしい伝統技術を他県に知ってほしい。また、県外にある他校との交流や他県との交流を増やしていく方法はないだろうか。

2年生 B：研修旅行（修学旅行）で鉱山の歴史について学んだ。学びを広げることで、視野が広まった。小坂町の康楽館に行ったことで、秋田の文化をさらに知りたいと思った。地域の歴史について知る機会が増えればと思う。

2年生 C：なまはげや曲げわっぱの体験を通して、地元の良さを改めて知ることができた。

3年生 A：県北地区の会社に就職が内定した。面接試験で緊張した。今年は企業との面接練習ができなかったのが残念だった。面接試験に向けて、環境問題や社会情勢について学習を深めておくべきだった。会社の方が本校を御存知なかったなので、本校をもっとアピールできたらよかった。

3年生 B：農業分野への進学が内定している。試験前に、この分野に詳しい外部の人から面接指導を受けたいと思った。

3年生 C：将来はプログラマーを目指しており、システム関連会社に就職したい。そのためにも高校でプログラミングを学ぶことはできないものだろうか。六郷高校として生徒募集にもつながる。今日のような場合は、六郷高校を考えるきっかけになるので、このような機会を継続してほしい。

3年生D：秋田市での就職が内定している。9月に予定されていた商工会による面接練習の機会がなく残念だった。やはり学校の先生との練習とは違うものがある。対面が難しい場合は、オンライン形式での練習もやってもらいたかった。就職を多方面から考える上で、企業の人と触れ合う機会が欲しかった。地元以外の他地区の会社の人に来てほしい。

3年生E：専門学校に進学するが、その分野の専門家を学校に呼んでほしい。実際に自分が目指す分野で活躍する人の声を聴くことができればと思う。関連した直接的な体験学習や面接練習を充実させてほしい。

委員C

修学旅行の機会を使って、進路学習を組み込み、修学旅行先で将来を見据えた体験ができればよいのではないか。

委員B

総合的な探究の時間の活用が一案として考えられる。具体的には、自分の職業について調べながら、一人ひとりに応じて体験できるように、各自で直接相手に連絡をとって進路学習を進めることも可能である。生徒が職業を探究する計画を立てて活動するという実践例も京都の高校で見られる。自分から進んで企画して取り組むことが大切である。能動的、主体的に自分で動く学習活動が必要である。自分で目標を考え、動いていく学習活動があればよい。カリキュラムを整理して取り組んで欲しいし、生徒も自分から声を上げてほしい。歴史を学びたいという意見があった。日本の歴史だけでなく、秋田県、とりわけ地域の魅力を語ることは必要不可欠な教養である。秋田県の魅力等を学ぶ特別授業を実施してもよいのではないだろうか。その際、講師となり得る方が地域にはたくさんいるので、教育委員会に是非相談してほしい。ボランティアでもやってくれる。

委員D

責任を重んじる生徒と目指す生徒像にあるが、高校生がもつ責任のイメージを教えてほしい。

3年生A：頼まれたことは、最後までしっかりやりとおすことだと思う。

2年生A：ミスをした後の後始末をどうするか、上司に報告する等、ミスをした後が大事で責任でもあると考える。

2年生B：任された仕事は必ずやり遂げることと思う。

2年生C：しっかり仕事こなすことはもちろん、挨拶ができることが重要だと思う。

1年生A：社会の秩序（ルール）を守れることだと思う。

委員D

仕事を休まれると、周りの人がフォローしなくてはいけない。休まないことが大切である。理由がある1、2回の休みは仕方がないが、3回目になると周りはフォローしてくれなくなってくる。企業面接をしたときに、皆さんに伝えていることでもある。他校のこういうところがいい、というところがあれば教えてほしい。

3年生A：アルバイトについて、他校では厳しい制限を伴うが、本校は寛容であることがうれしい。

3年生B：本校は音楽の時間が少なく、また美術の授業がない。

3年生C：大曲農業高校には、仮装行事等のように、みんなが主役になって自分を表現できる機会がある。夜市と学校がコラボすれば、地域を盛り上げながら、みんなが輝きながら学校をPRできるのではないだろうか。

委員E

学校も生徒のリクエストにきめ細やかな対応をすべきである。学校の進路指導ではカバーできない分野については、コーディネーターが必要な時期になってきている。コミ

コミュニケーションが重要な社会になっているので、様々な意見を聞かせてほしい。世の中には不条理なことが多くある。それを乗り越えるために、地域や家族間でのコミュニケーションをもっと深めていかなければならない。生徒の皆さんは、自分が進む道を自分で切り開いていくことができるようになってほしい。就職しても、その先の転職も視野に含めながら自分の生活を豊かにしていくように努めてほしい。

委員F

設備面で予算面で、購入してほしいものはないか。新しい行事の実現に向けて、自分たちで声を出してほしい。

【地域貢献部会】 会場：視聴覚室

- ・自己紹介
- ・協議

委員G

ボランティアはどんなことをやってみたいか。

委員H

ボランティアに参加してどうだったか。

2年生A：地域でゴミ拾いをもっと行うことで、町内をきれいにしたい。

2年生B：地域の高齢者宅の外壁の清掃はどうだろうか。

委員A

大人は学生ボランティアに期待している。

3年生A：高齢者施設で、高齢者と交流したり、花壇の作業を行いたい。

3年生B：自分も希望する高齢者施設でやってみたい。

2年生C：ボランティアには興味がある。

2年生D：昨年の除雪ボランティアはやりがいがあった。

2年生E：六郷かまくらで、天筆のボランティアを行ったが、自分が書いたものがその後どうなったのか見てみたい。

2年生F：高齢者とクリスマス会を開きたい。お互いに励まし合うことなどはどうか。

1年生A：美郷町広報の写真を撮影したい。SNSに投稿すると個人情報が漏れたりする恐れがあるが、広報であれば個人情報を守ることができる。

委員A

美郷町「議会だより」の写真撮影では、六郷高校写真部から協力をいただいている。

1年生B：地域の人たちと交流できるボランティアをやりたい。かつて、地域の方々と一緒に花壇の花植作業を実施したことがあるが、楽しかったし、親近感を持つことができた。

委員G

社会福祉協議会だより「福祉科通信」、CS通信、秋田魁新報、美郷の話題新聞、広報美郷等に六郷高校の記事が掲載されている。

委員H

ボランティアで人は成長する。やりたいことがあったら、ぜひ言ってもらえれば協力するので何でも言ってほしい。先生方に相談しづらい場合は私に言ってほしい。

Ⅲ 全体会

委員A

高校入試の応募の状況はどうなっているか。体験入学の波及効果は。

校長

中学生の数は昨年度よりは少し多いが、来年度の入学状況は今年度と同じくらいと思う。再来年度は、かなり減るようである。県南の学校では、学級減が生じると思われる。

教員B

今年度の体験入学は30～40名が参加した。若干減っている印象である。

委員B

本校のPRを更に展開しなければ、大変な状況にあると思われる。学校見学等、随時行う必要があると思うが、本校として生徒募集に向けて何か行っているのか。

校長

特別支援の生徒からの相談についても積極的に対応している。六郷高校を知ってもらうため、美郷町内の小学生を招いた福祉科の体験学習を継続して行っている。この2年間、学校祭が公開できていない。地域に開かれた学校祭、地域のコミュニティーの場として生徒と地域がふれあうことができる場を提供できないことに申し訳なく思う。

教員C

リーフレットを机上に配付しているが、新しい取組として「家族とプログラミング教室」を年明けに計画している。講師は本校1年生である。この講習会を通して本校生の姿を地域の人々に見てもらいたいと考えている。案内リーフレットは、各小学校に全クラス数分配付している。申込みは本校のホームページからできるようにしている。

委員G

広報美郷12月号で「福祉系学校就学資金の設立」について紹介されていた。県内では、六郷高校福祉科だけがこれに該当している。このような情報が適切に発信されているものなのか。本校のホームページでアピールしてほしい。

委員E

ホームページは情報を発信するというより、情報を取るという向きがある。そこでツイッターなどの手段を考えてもよいと思う。ただその際、情報発信がどこまで許されるのかについても考えなければならないだろう。

委員B

美郷町だけでなく、各中学校にこのような制度をもっと周知してもよいと思う。また、プログラミング講習会の周知案内に際して、町の教育委員会を活用してもらいたい。

委員A

今回のプログラミング講習会はいい企画である。IT系の取組は増やしてほしい。講師として本校生徒が関わるのはアピールになると考える。

委員D

イベントを企画すると集客によく難儀する。そこで小学生低学年の子どもでも理解できるような案内づくりは大切である。小さい子供が飛びつくような工夫も必要である。

委員G

具体的に何を行うのかを詳しく本校のホームページで案内してほしい。

委員B

六郷高校にコミュニティ・スクールのコーディネーターの加配は県教育委員会として可能か。

県教育委員会A

地域には地域学校協働本部がある。地域学校協働活動推進員を配置する上での補助金はある。人選や活動場所（本部）等、詳細が固まり次第、相談いただきたい。県立学校への配置については、生涯学習課で一括して対応している。

委員B

町内の小中学校は、NPO法人みさぼーとと連携して事業を展開している。こうした形も1つの方法になり得るのではないだろうか。

委員E

子どもたちが求めるものをより丁寧に汲み取りながら、関係機関と対応していけばよいと思う。

県教育委員会A

以前、六郷高校を選ばなかった生徒にアンケート調査を行っている。校内だけではなく、美郷中学校等とも共有してもらえれば何らかのヒントになる。

過日、テレビで長崎県の松浦高校が進化した普通科のモデルケースとして紹介されていた。学校の実情に応じて、特化したカリキュラムを設定している。また、他県では高校の地域留学に他県では取り組んでいるが、秋田県も同様に取り組んでいくことができればよいと思う。選ぶ魅力がはっきりしないところがある普通科だからこそ、様々な改革に対応していくようであってほしい。

○県教育委員会からの指導助言

県教育委員会B

本校は、コミュニティ・スクール3年目である。今回は初めての取り組みであったが充実した時間を過ごすことができた。生徒は自分の意見を立派に表現し、委員の方々の的確な意見をやりとりできていたことは素晴らしかった。生徒が参加することでの3つの効果として、「当事者意識が高まること、生徒の主体性が高まること、そして地域の大人が自分たちの学校を真剣に考える様子を見て、生き方を考えるようになること」が挙げられる。今回はその効果を非常に感じた。生徒が当事者意識をもち、自分たちの学校をよりよいものにしていこうという気持ちを感じることができた。また、他者の意見や視点を考えることができる場面も多く見られた。分科会で地域の方々による面接指導が今年度は中止になったことについて生徒が述べていたが、生徒自身も地域をとて頼りにしていることも感じられた。これに対して地域の人々も真剣に考え、応えている場面も良かったと思う。今後は、コミュニティ・スクールとして本校をいかに発信していくかが課題であり、生徒が活躍できる場をより増やすことで、学校活性化に繋げていってほしい。

県教育委員会A

生徒が参加する形式の学校運営協議会は、県内高校での実施例はこれまでにない。学校、地域、生徒自身がそれぞれの立ち位置でできることを考え、同時に学校の教育活動を充実させていくヒントを得ることができたと思われる。分科会では、地域の人たちと対話をし、自身の意見を率直に話す場面から、生徒の視点で協議が進められたのは良かった。今後は委員の視点も加味し、さらに充実したものにしてほしい。コミュニティ・スクールを通して、生徒が地域を知り、地域の人と関わりを求めていることが分かった。

こうしたやりとりによって、自分たちの学校を作っていくことも生徒は求めているようなので、さらにブラッシュアップして続けていってほしい。コミュニティ・スクールにおいては、「熟議」が大切である。今後は付箋紙を活用しながら、さらに話しやすい環境づくりに工夫を凝らすことも必要である。そして、話し合いに際して、課題をもう少し絞った方が良いという指摘もあったが、KPT法(Keep Problem Try)を活用することもできる。生涯学習課では県庁出前講座の一環でKPT法をはじめ、「熟議」の実践等を研修会形式で行っているので活用していただきたい。今後、「熟議」が深まっていけば、六郷高校がパワーアップしていくことができるのではないかと考える。最後に、プログラミング講習会を宣伝する際、「六郷高校生が教える」というキャッチフレーズがあればインパクトがあつてよいと思う。(※ ホームページ、リーフレットを変更)

○学校運営協議会副会長 挨拶

生徒の活躍が多く見られる。具体的には「みさと福祉だより」で紹介されている各種活動や生徒体験発表での入賞などの情報を、この学校運営協議会でもっと披露してもいい。部活動では、自転車競技部が全県新人戦において男子総合優勝を果たしことは喜ばしい。こうした生徒の活躍を学校のPRにつなげていく工夫がさらに必要である。

本日の会議に際して、テーマが広すぎて若干心配したものの、アンケート結果を基に生徒の意見を聞くことができたのは良かった。年3回開催のうち1回はこの形式でもよいのではないかと思った。今日の話し合いのような機会を通して、生徒たちに自分たちの学校という意識をどのように持たせていくかを考えなくてはいけない。出された多くの意見をどのように受け止めて、そこから実際に1つでも2つでも具体化していくことが大切である。これからの学校運営協議会の在り方として委員と学校が共に考え、必要に応じて変えていくことも肝要である。

今日の話し合いの中で、秋田県や美郷町の歴史に興味があるという意見があつたのは素晴らしい。その魅力をさらに学ぶためにもゲストティーチャーの活用を含めて、教育委員会でも協力したい。広報に写真部による写真を載せてほしいという声があつたが、六郷高校の欄も考えている。以前は行っていたので、要望があれば積極的に相談してほしい。プログラミング講習会のPRも、教育委員会に相談してもらえれば、バックアップができる。積極的に相談していただきたい。よい刺激をいただいた協議会で大変良かった。